

国際化 広がる世界との交流

富士ソフトは、グローバル戦略として、世界に市場を求め事業を推進しています。また、その動きに合わせて世界各国との交流を深め、世界に富士ソフトと富士ソフトの技術を理解してもらえよう様々な取組を行っています。

サウジアラビア留学生へ

富士ソフトのビジネスと技術を紹介

富士ソフトの海外事業展開に向けて、世界各国の大使館と情報交換を行い、積極的に交流を進めています。

昨年度はサウジアラビア大使館の要請にもとづき、日本で勉学に励む在日サウジアラビア人学生を当社へ招き、PALRO®（パルロ）をはじめとした知能化技術と、当社が想う未来の社会像を紹介しました。サウジアラビア大使館からは、交流の感謝の証に記念品



サウジアラビア大使館から野澤会長（中央右側）への記念品贈呈

が野澤会長に贈呈され、両国の発展にお互い協力していくことを約束しました。

学生達が故郷へ帰った時、彼らの国で当社の技術を見る日もそう遠くはないかもしれません。



海外インターンシップ生の受け入れ

当社では、次世代のビジネスを担う人材の育成及び国際交流のため、欧米諸国の学生を毎年数名受け入れるインターンシップを実施しています。

1992年にインターンシップ生の受け入れを開始し、今年度で20年になります。これまで、欧米諸国を中心に学生を受け入れ、世界各国との交流を推進してきました。

今後のグローバルビジネスで活躍できる人材には、語学力だけではなく、異文化にも対応できるコミュニケーション力も兼ね揃えていることが必要と考えます。インターンシップ生には、日本独自の文化と共に、当社のIT技術や、社会人としての姿勢を学んでもらい、本人のスキルアップに繋がるよう、研修を実施しています。

また、当社としても、海外のインターンシップ生を受け入れることにより、文化や民族性、ビジネスに対する姿勢の違いを身近に学び、グローバル人材の育成に役立っています。

海外の異文化人材と共に働くという通常とは違う新鮮な雰囲気、組織の活性化となり、社員の成長に繋がる良い機会となっています。

外国人社員の積極的な採用

当社では外国人社員が101人おり（2011年3月末現在）、海外市場での事業展開に向けて社内の国際化を進めています。例えば、海外から採用した外国人社員が、日本人社員と一緒にになりお互いの異なる価値観をぶつけ合いながら、新しいビジネスを開拓しています。

現在、国際部国際事業企画室で働く Alan Fisher さんは、アイルランドから当社へ入社し、3年が経ちました。今では主任としてチームのマネジメントを務めると共に、他の外国人社員のフォローや日本人社員との架け橋を務めています。



Q：なぜ日本に来ようと思ったのですか？

A：私は大学を卒業するとき、大きなチャレンジをしようと思っていました。アイルランドやヨーロッパのほかの学生とは何か違うことをしたいと思いました。日本という国の発展の歴史は、私の中で非常に魅力的で、日本で成功することができれば、自身の大きなステップとなると思ったからです。



Q：日本での生活はどのような感じですか？

A：日本での生活は決して簡単ではありません。言語、文化、食事そして職場環境などアイルランドとは大きく違いますし、しばしばちょっとしたホームシックにもなります。でもそれはほんの一部の話であり、これらの経験が私を大きく成長させてくれていると思います。実際、日本での生活が長くなると、日本人のフレンドリーさ、親切さを感じることが出来ます。日本にいられて大変幸せだと思っています。

Q：富士ソフトはどんな会社ですか？

A：富士ソフトの社員は皆一生懸命働き、常にベストを尽くしており、とても敬意を持っています。そして日本人とアイルランド人はとても似ていると思います。勤勉で、とても友好的で、そしてなにより仕事の後に一緒にビールを交わし心通わせられるところが非常に親しみやすいと思います。



Q：現在はどのような仕事をしていて、これからどのようなステップアップを考えていますか？

A：現在、国際部国際事業企画室で働いており、常に成長し続けたいと考えています。究極のゴールは富士ソフトを真のグローバルカンパニーにしていくことであり、その足がかりを作っていくことが現在のミッションです。実際、PALRO®（パルロ）や Sapie®（サピエ）の海外展開について様々なアプローチを進めています。最近出張した北米で大きな手ごたえを感じています。